



循環経済パートナーシップ（J4CE） 2023年度活動報告

2024年4月23日

1. J4CEの概要と2023年度活動報告

2. 振り返りアンケートの結果

循環経済パートナーシップ（J4CE）の概要

- 2021年3月に経済産業省・環境省・経団連により、「循環経済パートナーシップ（略称：J4CE ジェイフォース）」を発足。2023年度で活動は3年目。

趣旨

国内の企業を含めた幅広い関係者における循環経済への更なる理解醸成と取組の促進及び循環経済への流れが世界的に加速化する中で、国際社会におけるプレゼンス向上を目指し**官民連携を強化**する。

経緯

- 2021年1月 環境省と経団連との懇談会にて、官民連携による「循環経済パートナーシップ」の立ち上げに合意
- 2021年3月 経済産業省・環境省・経団連により、「循環経済パートナーシップ」を発足
- 2021年4月～ 加盟企業・団体から取組事例を募集
- 2021年10月～ 官民対話を開催

具体的取組

- ◆ 循環経済に関する日本の取組事例の収集と**国内外への発信・共有**
- ◆ 循環経済に関する情報共有や**ネットワーク形成**
- ◆ 循環経済促進に向けた**対話の場の設定**

パートナーシップ構成員

- 創設団体：環境省、経済産業省、経団連
- 参加企業・団体：177社・20団体・計197（2024年3月末）
 - ① 経団連の会員企業または団体
 - ② ①以外の企業または団体で、本会の目的に賛同して参加を希望し、創設団体が参加を認めた者
- 事務局：(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)

循環経済への更なる**理解醸成**や**取組促進**、
日本企業の**国際的なプレゼンス向上**を目的とした**官民連携強化**

日本の**取組事例収集**
と国内外への**発信・共有**

J4CE Activities

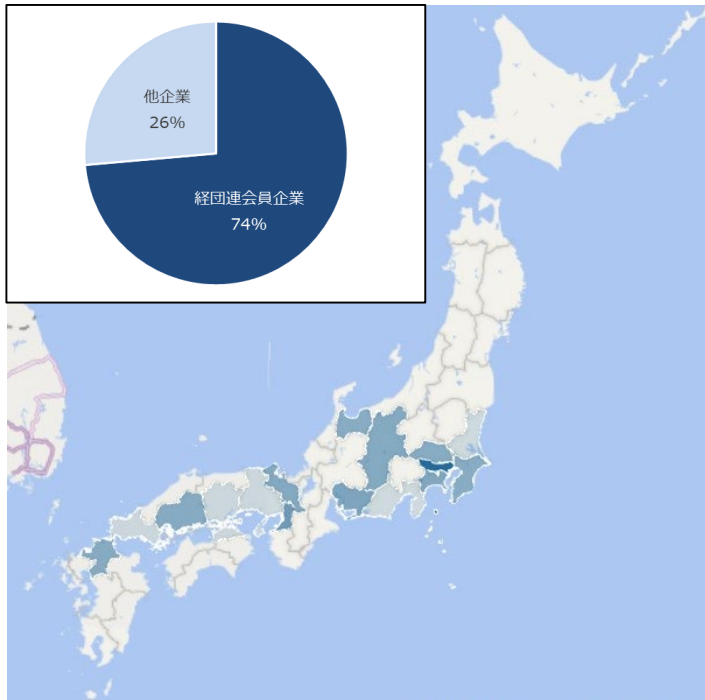
循環経済に関する**情報共有**や
ネットワーク形成

循環経済促進のための
対話の場の設定

J4CE参加企業・団体

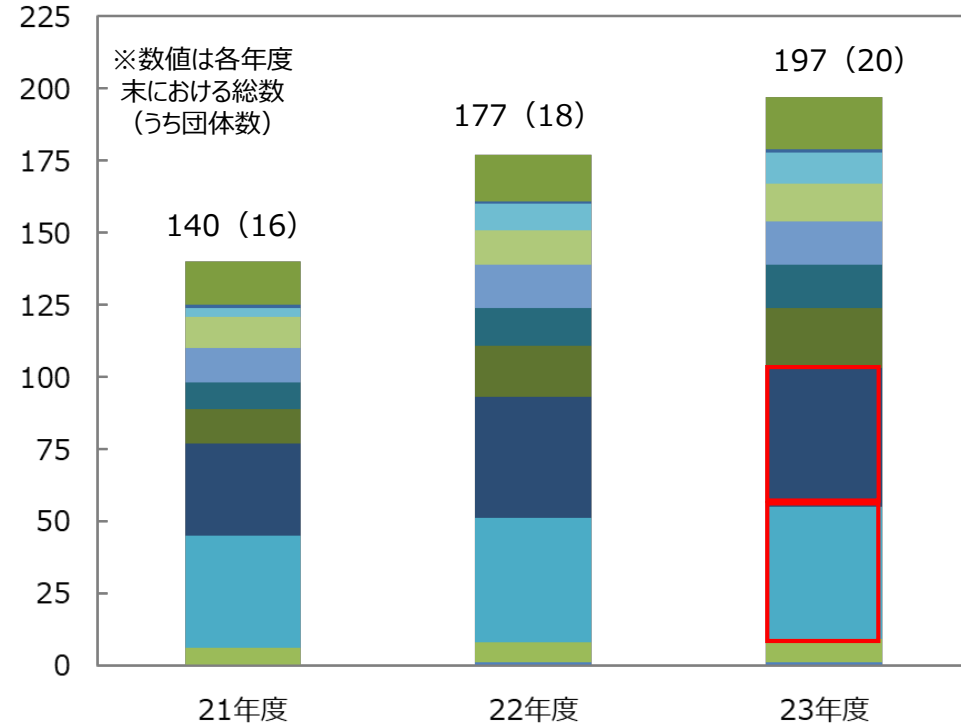
- 2024年3月時点の参加企業・団体数は197。約7割が経団連会員企業。
- 約7割は東京都に本社所在。大阪府、愛知県が続く。業種別では素材産業や製造業が多い。

参加企業・団体の約7割が
経団連会員



本社所在地の分布では東京、大阪、愛知が多い

業種別では素材産業、製造業が多い

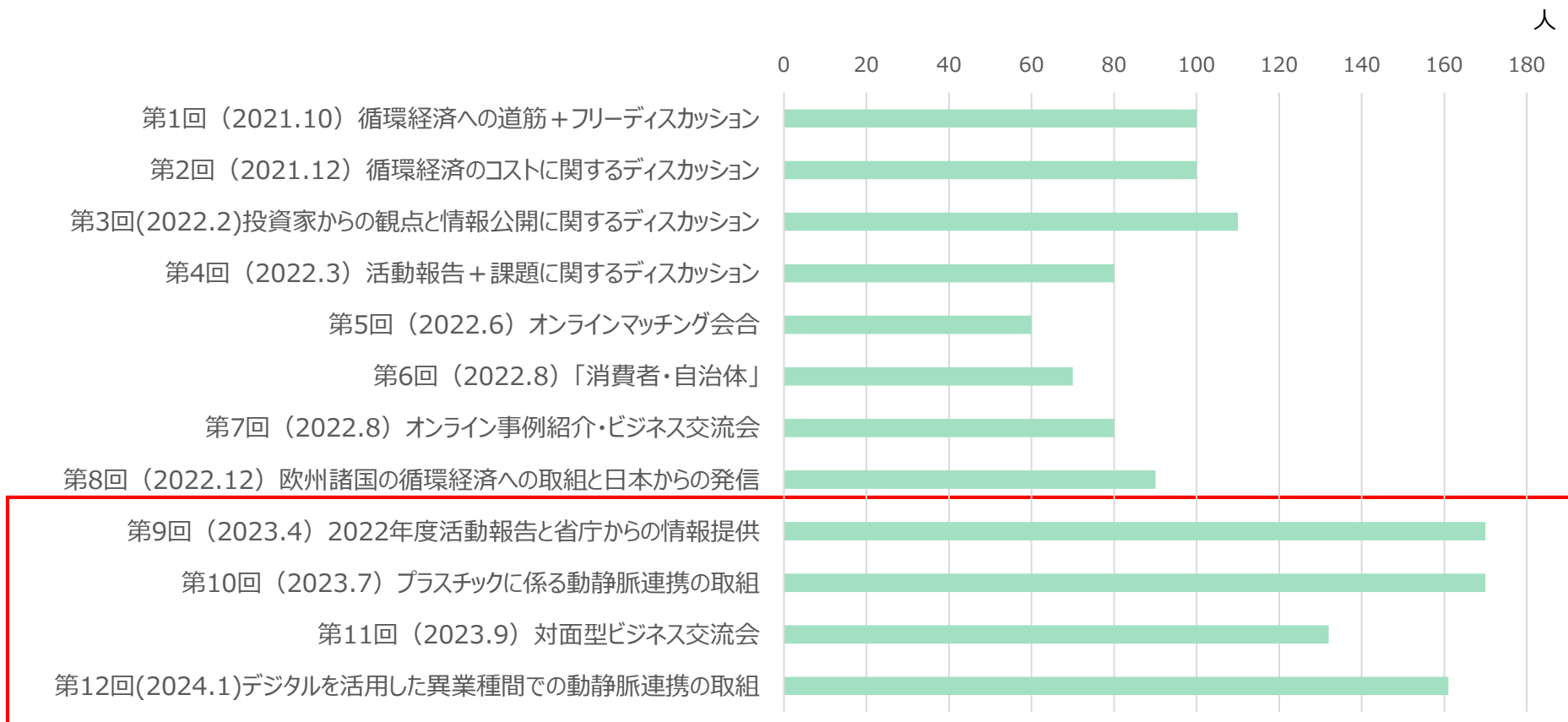


- | | |
|--------------------------|---------------|
| ■ 国際機関・団体、各種団体、他 | ■ 行政、研究機関、NGO |
| ■ 廃棄物処理・リサイクル・環境コンサルタント業 | ■ サービス業 |
| ■ 金融・保険・不動産等 | ■ 卸・小売業 |
| ■ インフラ・運輸 | ■ 製造業 |
| ■ 素材産業 | ■ 建設業 |
| ■ 農林水産業 | |

日付	概要
2023.4.19	第9回 官民対話「2022年度活動報告と省庁からの情報提供」
2023.7.18	第10回 官民対話「プラスチックに係る動静脈連携の取組」
2023.9.6	第11回 官民対話「ビジネス交流会」
2023.11.6-7	「循環経済及び資源効率性原則(CEREP)に関するG7-B7合同ワークショップ」
2023.12.10	COP28サイドイベント（ジャパンパビリオン）「循環経済と資源効率の原則」（CEREP）と「グローバル循環プロトコル」（GCP）を通じた循環ビジネスの促進」録画動画（Youtube）をメルマガを通して紹介し、期間限定で配信
2024.1.24	第12回 官民対話「デジタルを活用した異業種間での動静脈連携の取組」

(参考) 官民対話の参加者数の推移

- 2023年度オンライン官民対話の参加者数は、各回160～170名（J4CE運営関係者除く）であり、前年度までと比較して2倍程度増加。



ウェブサイト/メルマガ

- 179の事例を掲載（2024年3月末）



- 循環経済に関する内外の政策やビジネスのトピックを紹介したメルマガを月1回発行。
- 参加企業・団体の約550名に配信。

国際発信

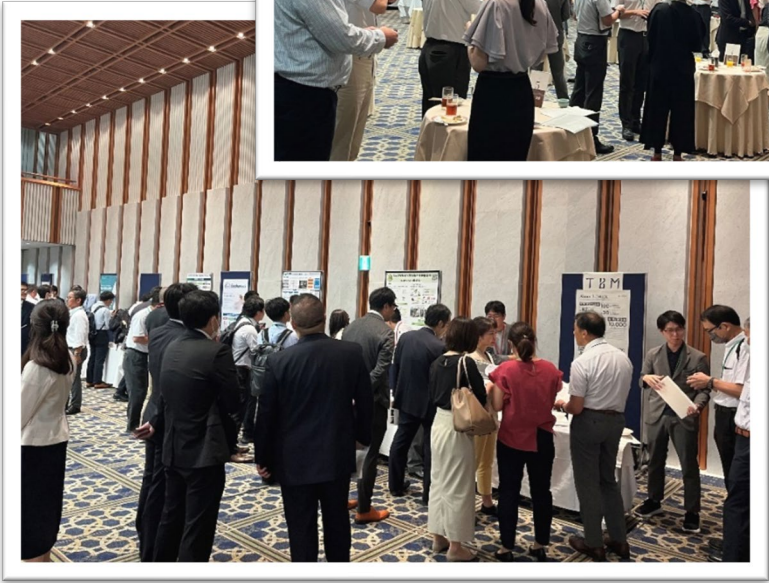
- G7広島サミットで承認された「循環経済及び資源効率性原則（CEREP）」に関し、G7及びB7の共催による初の合同ワークショップが開催された。
- 日本が議長を務め、CEREPについて日本の民間企業から優良事例を紹介し、B7、G7、その他の参加者がCEREPの統合等の議論を実施。



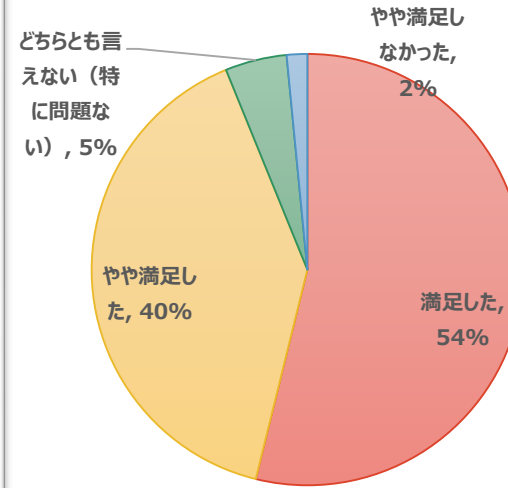
G7-B7ワークショップの様子

ビジネス交流会

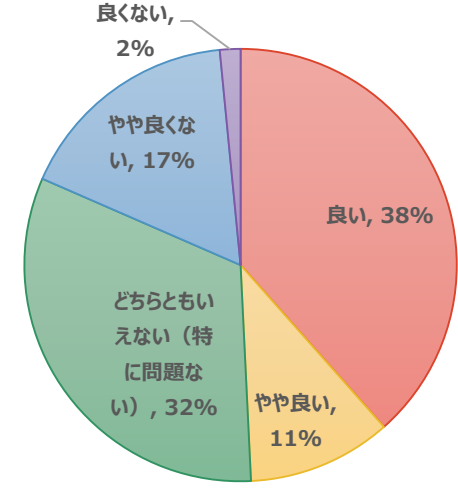
企業からの事例紹介と交流を希望する企業との
コロナ禍後初の対面型のビジネス交流イベント



- 2023年9月6日@経団連会館（60社・団体、132名参加）
- J4CE参加企業及び環境スタートアップ大賞等を受賞した企業による**ピッチ**や、**展示ブース**や**スライドショー**を通して、各社の新たな技術や取組について情報交換



全体の満足度



官・他社との交流のしやすさ

参加者コメント（抜粋）

- ピッチで取組紹介から交流会の流れが良かった。
- ネットワークやつながりが構築できた、情報交換できた。
- 実際にビジネスにつながった。
- 名札が名刺では字が小さすぎ、声をかけづらかった。
- 是非こういった交流会の継続と拡大をお願いしたい。

1. J4CEの概要と2023年度活動報告

2. 振り返りアンケートの結果

アンケートの実施概要

目的と概要

- J4CEへの参加度合いや満足度と期待などの全般的な質問と、2021年度「課題の整理」をベースとして循環経済の促進に向けた課題の認識についての33の質問。
- J4CEメルマガ送付と同じ197社・団体（2024年3月末現在）の約550名に送付、回答数156名

質問項目（抜粋）

Q2 J4CEの取組みの中で、活用あるいは参考にされている内容を全てお選びください。

- 1 官民対話
- 2 注目事例集
- 3 ビジネス交流会（マッチング会合）
- 4 メルマガ
- 5 ウェブサイトにおける取組事例の公開
- 6 活用あるいは参考にしている内容はない
- 7 その他

Q18 今後「J4CE」に求める役割や機能を全てお選びください。

- 1 他社との交流による新たなビジネスのきっかけづくり
- 2 循環経済における国の政策に関する意見交換
- 3 国内外における循環経済に係る情報提供（政策・社会動向、補助事業等）
- 4 海外の機関・イニシアチブや海外企業との接点の強化
- 5 自社の取組の国内外への発信の場
- 6 個々の素材や製品分野に特化したディスカッション
- 7 その他

※2021年度の課題整理に紐づけた設問

Q15 現在、ご自身が知りたいと思うテーマを5つお選びください。

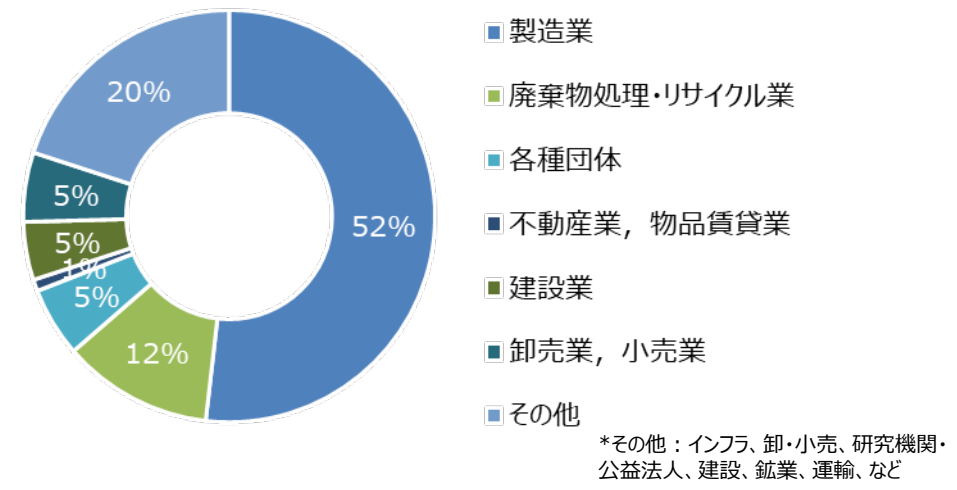
Q16 J4CEで自社以外のJ4CE会員に問題提起あるいは情報共有したいと思うテーマを5つお選びください。

	制度・ルール			コスト・投資		消費者・普及啓発	ビジネスモデル・技術		
	法令整備	ルール形成（マシランズ法など市場ルール）	海外規制	コストアップや費用負担	CEビジネスへの投資	環境ブランディング（消費者、環境価値）	プラットフォーム・データ活用（DX）	リサイクル技術開発（品質向上）	環境配慮設計・代替素材
横断/基盤/外部環境（共通）	① ・ 動静脈間でのルール調和 ・ 官によるルールメイク ・ CEの定義の明確化 ・ 資源循環にかかるCO2排出量算定・表示に関するルールの整備			④ ・ 将来像の提示 ・ 投資や助成を受けるための評価の仕組み、情報開示への意識向上 ・ 人材育成 ・ 気候変動や生物多様性とCEの関係整理 ・ コスト負担の考え方の整理、インセンティブ		⑦ ・ 企業や製品の評価やブランド化 ・ CEや資源循環の意義共有	⑩ ・ ビジネスモデルのインキュベーション、確立 ・ 関係者間の連携推進 ・ DX（データ共有や利活用）の推進 ・ 再生材市場の整備		
設計・生産・流通・利用（動脈）	② ・ 環境配慮設計の促進策 ・ 関連法制度との関係性の整理			⑤ ・ 再生材や代替材のコスト負担をいかに求めるか		⑧ ・ 製品・サービスの環境価値をどのように訴求するか	⑪ ・ 生産工程や技術開発における取組 ・ 環境配慮設計 ・ 再生材の活用		
回収・リサイクル（静脈）	③ ・ 分別回収・リサイクルの仕組みの変遷、構築 ・ 再生品の標準・ルールの整備 ・ 国際ルールとの調和や簡素化（国際資源循環）			⑥ ・ 特に「回収」のコスト負担 ・ 回収スキーム構築に向けたインセンティブ ・ 静脈産業の強化・育成（設備、人材、技術）		⑨ ・ 分別への消費者意識の機運醸成	⑫ ・ 効率的な回収スキーム構築、連携先の確保 ・ リサイクル技術の開発、再生材の品質向上 ・ 設計や回収・選別組み合わせたリサイクルの高度化		

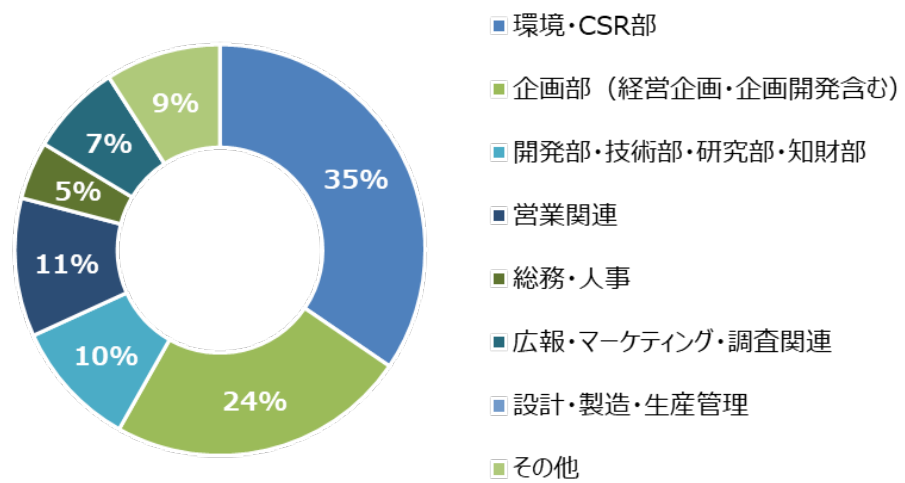
回答者の属性

- 回答者の所属企業は、**52%が製造業**で、次いで**約12%が廃棄物処理・リサイクル業**であった。(Q29)
- 所属部署は、**環境・CSR部門が35%**と最も多く、次いで**企画関連の部門が約24%**となっている。**部課長、係長・主任クラスなど現場に近い実務者**が大半を占める。(Q30~31)

Q29 所属企業あるいは団体の業種を教えてください。(n=110)

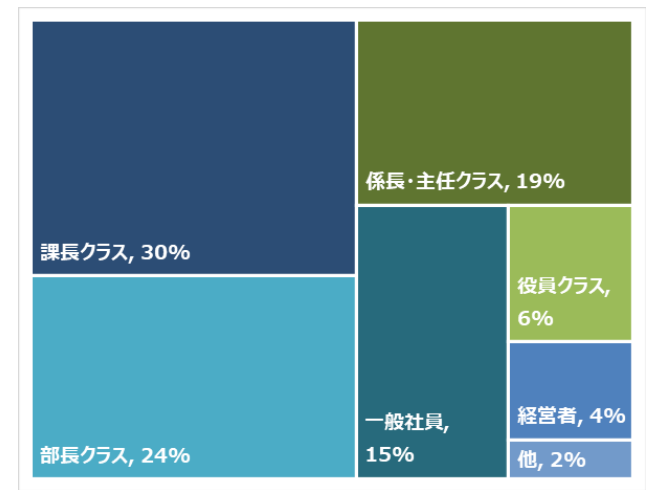


Q30 あなたの所属部署に最も近いものを教えてください。(n=110)



備考：nは回答者数を示す。

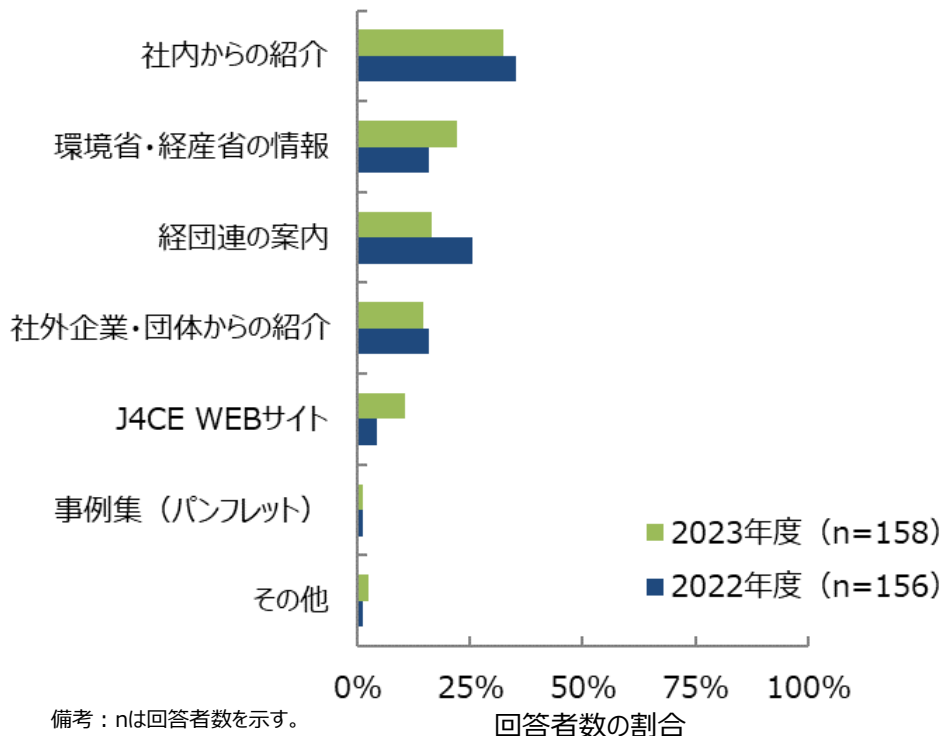
Q31 あなたの役職に最も近いものを教えてください。(n=110)



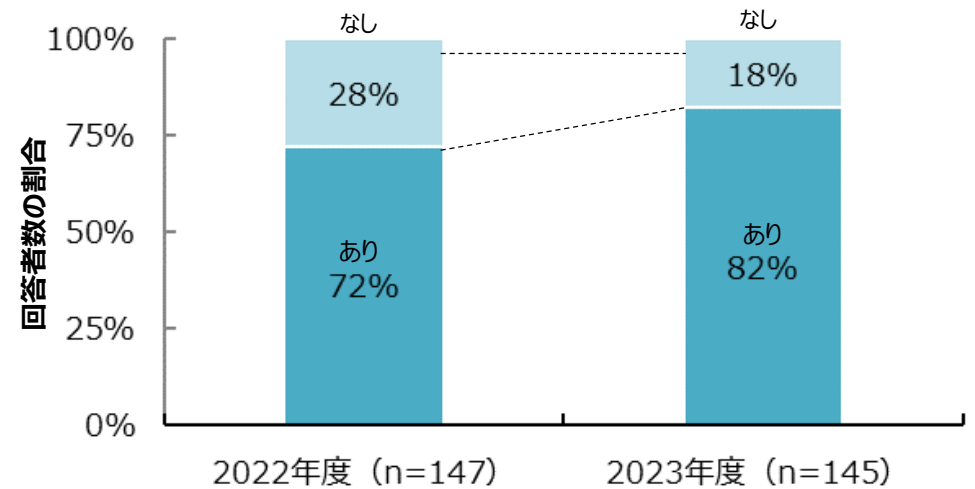
J4CEを知ったきっかけ、社内の情報共有

- J4CE創設時は経団連から会員企業への案内でスタートしたが、回答者がJ4CEを知ったきっかけは「**社内からの紹介**」が最も多い。また、各社内で他の部署・担当者へ情報を共有いただいている。
- 「**環境省・経済産業省からの情報**」、「**J4CEウェブサイト**」をきっかけに知ったという回答割合は2022年度よりも上昇。また、社内の他部門への展開の割合も上昇。（Q1、3）

Q1 J4CEを初めて知ったきっかけを1つお選びください



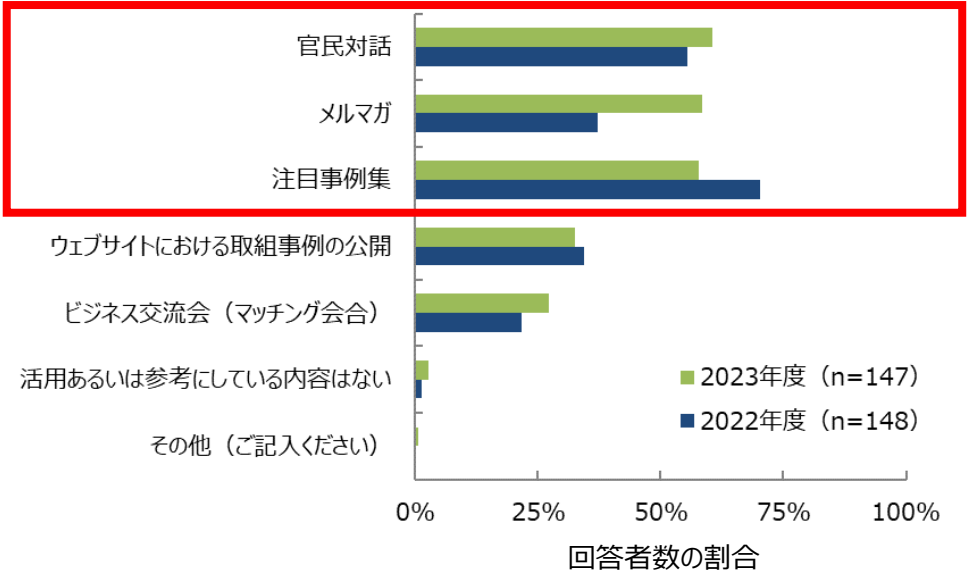
Q3 J4CEで知った情報や資料を、社内の他部門に展開したことはありますか。



活動への参加、活用、期待する機能

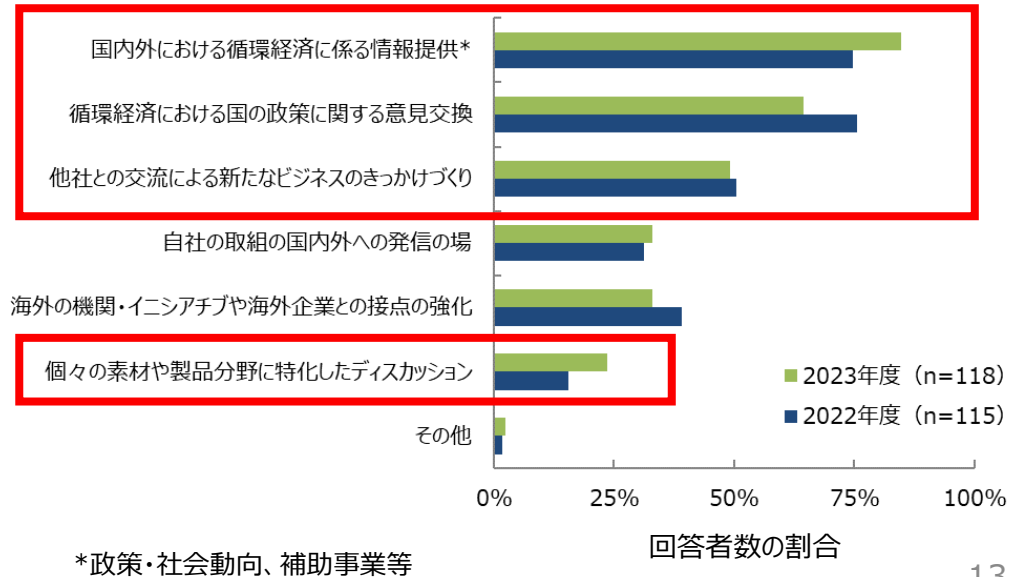
- 官民対話、メルマガ、注目事例集は、「活用または参考に使っている」という回答が過半数。(Q2)
- J4CEに期待される機能としては、「国内外における循環経済に係る**情報提供**（政策・社会動向、補助事業等）」が最も多く「循環経済における国の政策に関する**意見交換**」、「**他社との交流**による新たなビジネスのきっかけづくり」が続いた。(Q18)
- また、**情報提供**や**素材・製品分野に特化したディスカッション**は、昨年度よりも回答割合が上昇しており、ニーズが高まっていると考えられる。(Q18)

Q2 J4CEの取組みの中で、活用あるいは参考にされている内容を全てお選びください。(MA)



備考：nは回答者数を示す。

Q18 今後「J4CE」に求める役割や機能を全てお選びください。

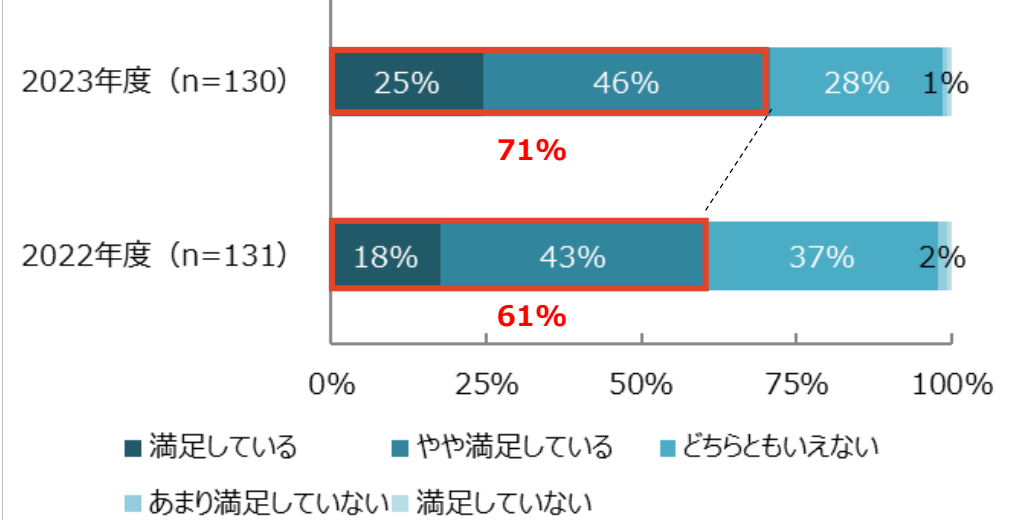


*政策・社会動向、補助事業等

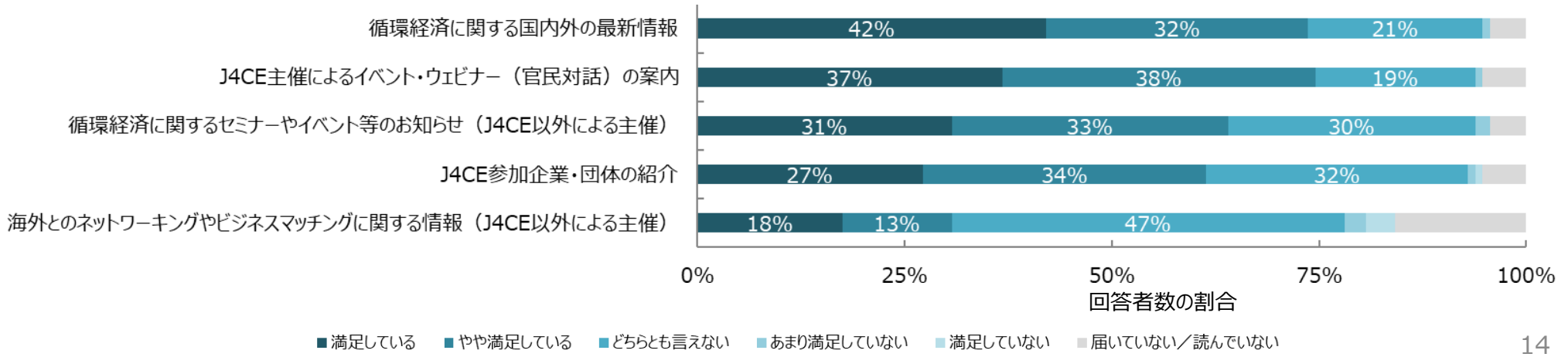
活動内容への満足度

- 2023年度の活動への総合満足度は、平均で5段階中で3.9。2022年度より0.2ポイント上昇。(Q11)
- メルマガ配信については、「**循環経済に関する国内外の最新動向**」など、情報提供に関する満足度が高い。(Q22)

Q11 J4CEに対する総合満足度を教えてください。



Q22 メルマガ記事の満足度をそれぞれ選んでください。(n=114)



備考：nは回答者数を示す。

活動内容への満足度

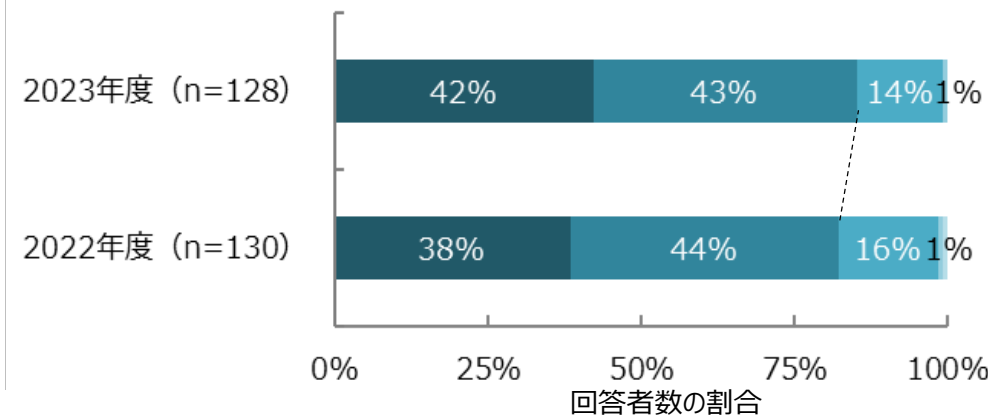
- 大部分は国内外の情報提供や交流機会の提供に満足感を示している。一方、より多くの交流機会を求める声もある。(Q12より抜粋：J4CEに対する満足度 (Q11) の回答理由)

総合満足度	上記の理由をご記入ください。	業種
満足している	ニュースなどのお知らせも役に立っている。	製造業
	弊社の考え方を見直すきっかけにもなっている。	
	充実した情報発信をいただける。レベルの高い意見交換が出来る。官と民の距離が近い。	
	自社についての発信や、同志の企業様と交流かつ事例を学べる。	
	関連会社の取り組みを知ることができ、自社の取り組みも発信できるから。	
	情報収集、他社とのネットワーク構築に大変有意義。	
	自身が実施している業務に関連しているため。	
	官民の取組み動向が分かるため。	
	知りたい情報を適宜収集することができているため。(後日、参加できなかった講演についても資料が共有されるため、ある程度リカバリ可能な点が助かる)	
	積極的な情報発信	
	情報共有のテーマ選定が優れているから。	
	メルマガなどで海外を含む最新の動向が知れる	
	経済界全体で解決しなければならない、ゼロカーボン対応、サーキュラーエコノミクスに対して、業界大手各社の参加により、情報量が極めて多く、有用であると認識。	廃棄物処理・リサイクル業
	他社の具体的な取組みを知る機会となるから。	電気・ガス・熱供給・水道業
マッチングや省庁の動向など、幅広くイベントを企画して頂いた。	情報通信業	
大きな会社から弊社のような会社まで参加でき、対等に議論を交わすことが出来るのが良い。	研究機関・公益法人等	
最新の政策動向等共有していただき助かっている。	建設業	
昨年9月に加入しましたが、やる気のある企業が多く、一緒に取り組む可能性が高いと感じたため。		
どちらとも いえない	当方理由で十分な活用、交流が出来ていないため。	製造業
	一定の成果はあるが、具体的な成果事例があると良い。	
	もっとサーキュラーエコノミーに対する一般の理解、普及に繋がるような発信を期待したいため。	廃棄物処理・リサイクル業
	活動内容が良く分からない。	
	参加企業同士の交流の場をもっと設けてほしい。	卸売業、小売業
	情報過多で自社事業と関連する情報が否かの判別に手間がかかる場所が不満。	建設業
社内でうまく活用のプロセスをつくらせていない。	その他 (具体的に)	

今後への期待 (1/3) 参加意欲・求められる活動

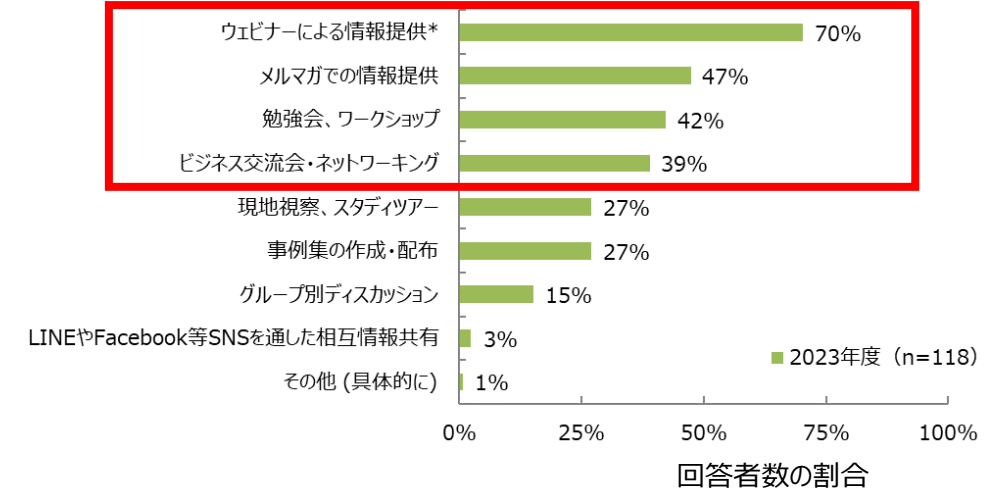
- 今後も参加したいという意向は5段階中で平均4.3と、2022年度より0.1ポイント上昇し、活動に期待いただいていると思料。(Q11~14)
- 具体的には、**ウェビナーによる情報提供**が求められている。また、**メルマガでの情報提供、勉強会・ワークショップ、ビジネス交流会ネットワーキング**などへの期待もある。(Q19)

Q13 J4CEの活動に今後どの程度参加したいですか。



■ 参加したい ■ やや参加したい ■ どちらともいえない
 ■ あまり参加したくない ■ 参加したくない

Q19 今後J4CEに求める活動を3つまでお選びください。



*登壇者による事例・最新情報の提供、パネルディスカッション

今後への期待 (2/3) 関心の高い領域

- 課題の整理 (12領域) のうち、「知りたいと思うテーマ」と「問題提起あるいは情報共有したいと思うテーマ」の傾向は似ていた。
- 最も関心の高い領域は、2022年度と同様、「**横断/基盤/外部環境 (共通)**」や**回収・リサイクル段階 (静脈側)**の**制度・ルール**」である。(Q15、16)

Q15 ご自身が知りたいと思うテーマを5つお選びください。(MA、n=121)

	制度・ルール	コスト・投資	消費者・普及啓発	ビジネスモデル・技術
横断/基盤/外部環境 (共通)	60%	30%	18%	40%
設計・生産・流通・利用段階 (動脈側)	33%	21%	13%	31%
回収・リサイクル段階 (静脈側)	58%	34%	27%	49%

	制度・ルール			コスト・投資		消費者・普及啓発	ビジネスモデル・技術			
	法令整備	ルール形成 (マスマル法など市場ルール)	海外規制	コストアップや費用負担	CEビジネスへの投資	環境ブランディング (消費者、環境価値)	アライアンス・ビジネスモデル	情報連携システム・データ利活用 (DX)	リサイクル技術開発 (品質向上)	環境配慮設計・代替素材
横断/基盤/外部環境 (共通)	<ul style="list-style-type: none"> 動静脈間でのルール調和 官によるルールメイク CEの定義の明確化 資源循環にかかるCO2排出量算定・表示に関するルールの整備 			<ul style="list-style-type: none"> 将来像の提示 投資や助成を受けるための評価の仕組み、情報開示への意識向上 人材育成 気候変動や生物多様性とCEの関係整理 コスト負担の考え方の整理、インセンティブ 		<ul style="list-style-type: none"> 企業や製品の評価やブランド化 CEや資源循環の意義共有 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスモデルのインキュベーション、確立 関係者間の連携推進 DX (データ共有や利活用) の推進 再生材市場の整備 			
設計・生産・流通・利用 (動脈)	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮設計の促進策 関連法制度との関係性の整理 			<ul style="list-style-type: none"> 再生材や代替材のコスト負担をいかに求めるか 		<ul style="list-style-type: none"> 製品・サービスの環境価値をどのように訴求するか 	<ul style="list-style-type: none"> 生産工程や技術開発における取組 環境配慮設計 再生材の活用 			
回収・リサイクル (静脈)	<ul style="list-style-type: none"> 分別回収・リサイクルの仕組みの変更、構築 再生品の基準・ルールの整備 国際ルールとの調和や簡素化 (国際資源循環) 			<ul style="list-style-type: none"> 特に「回収」のコスト負担 回収スキーム構築に向けたインセンティブ 静脈産業の強化・育成 (設備、人材、技術) 		<ul style="list-style-type: none"> 分別への消費者意識の機運醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な回収スキーム構築、連携先の確保 リサイクル技術の開発、再生材の品質向上 設計や回収・選別と組み合わせたりサイクルの高度化 			

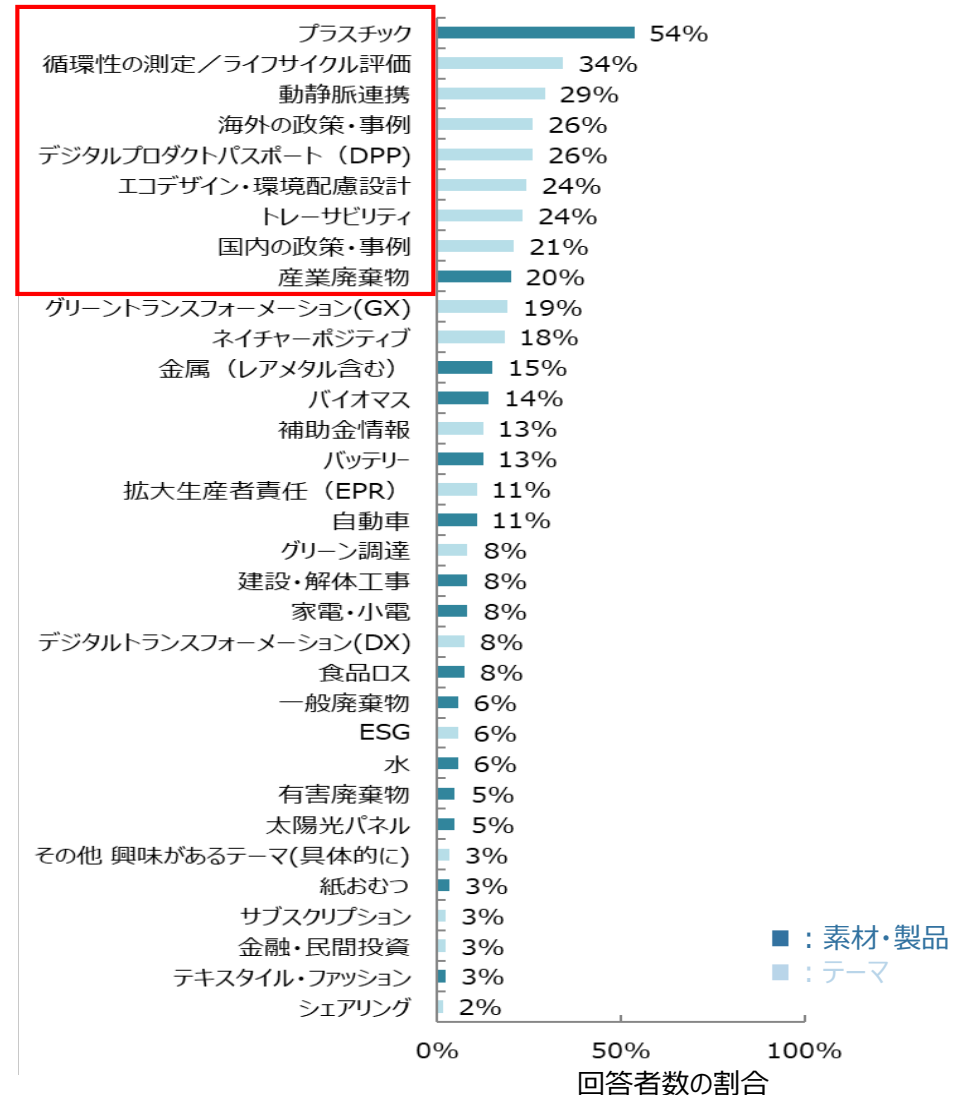
Q16 J4CEで問題提起あるいは情報共有したいと思うテーマを5つお選びください。(MA、n=121)

	制度・ルール	コスト・投資	消費者・普及啓発	ビジネスモデル・技術
横断/基盤/外部環境 (共通)	42%	16%	12%	32%
設計・生産・流通・利用段階 (動脈側)	15%	20%	10%	19%
回収・リサイクル段階 (静脈側)	37%	27%	21%	39%

アンケート結果の分析 (3/3) 関心の高い素材・製品・テーマ

- 最も関心の高い素材・製品は「**プラスチック**」、テーマは「**循環性の測定・ライフサイクルでの評価**」、「**動静脈連携**」などである。(Q17)

Q17 ご自身が知りたい、あるいは興味がある循環経済・資源循環の素材・製品やテーマを上位5つまでお選びください。
(MA、n=119)



- J4CEでは、循環経済に関する取組のビジネス機会を促進するべく、官民対話やJ4CEウェブサイト・メルマガを通じて、企業の優良事例や行政施策の情報発信・意見交換、注目事例集の作成、業界間の垣根を超えたビジネスマッチングの場の提供を実施。
- 参加企業から以下のような評価、期待をいただいている。
 - 評価されている点
 - 国内外の政策動向や企業事例等についての、ウェビナーやメルマガ、事例集等による情報提供は評価が高い。
 - 期待されている点
 - 循環経済に関する政策動向等の**情報提供に関する期待が大きい。**
 - **他企業との交流、ビジネスマッチングの機能への期待も高い。**
- 興味のあるテーマ・領域
 - **横断/基盤/外部環境（共通）** 及び**回収・リサイクル段階の制度・ルール**の領域
 - 「プラスチック」、「循環性の測定・ライフサイクルでの評価」、「動静脈連携」、「エコデザイン」、「DPP・トレーサビリティ」など

(2023年度J4CE参加企業アンケート結果より事務局が整理)



循環経済パートナーシップ (J4CE)

創設団体



事務局 (公財)地球環境戦略研究機関 (IGES)
E-mail: J4CE_Secretariat@iges.or.jp
Website: <https://j4ce.env.go.jp/>

